

# 通年観光計画、従業員ゼロの会社が受託。調査すべき！

9月議会での私の一般質問の続報です。今回は市の通年観光計画策定支援業務委託をめぐる質問の概要です。

【橋爪】通年観光計画策定支援業務は報道機関が関与している会社に委託する契約を結んだが、これについて市長はどう考えているか。

【中川市長】この度の受託事業者については、適正な審査を経て選定したものだ。審査の結果、報道機関が出資し設立した事業者を選定したが、報道機関の関与の有無にかかわらず、他の事例と同様、事業者が有する先進性や幅広い知見、優れたノウハウなどを参考に事業の推進にいかしていきたい。

【橋爪】昨日、『ルポ人口減少』という本を読んだ。上越支社の記者が1年間、実に丹念に取材をし、そして一定の方向性を具体的な事例を取り上げながら見せている。だから読むと感激するし、希望が持てる。やっぱりマスコミというのはこういう形で地域に貢献すべきだ。本の中では、ある人が「通年観光を唱える今の市政に対して強い違和感を覚える。地域活性化とは、今住んでる人の環境を良くすることが先じゃないのか」と発言したこ

とも書いている。今度、観光計画策定支援業務に報道機関が入った場合、(市が金を出さず仕事をして)こんな記事書けますか。考えてもらいたい。

【橋爪】新しい会社は、2021年の4月に2つの会社が共同出資して設立されている。会社の皆さんと市長はあったことがあるか。

【市長】勉強会の講師とかで来られた時に会ったことがある。

【橋爪】いつ会ったのか。

【阿部文化観光部長】手元の資料だと、令和4年の10月の13日だ。

【橋爪】勉強会で話を聴くだけで終わったのか。通年観光について、意見交換はしなかったのか。

【市長】意見交換をしたことはございません。

【橋爪】この会社2021年の4月に設立された。いま、従業員は何人か。

【阿部部長】代表取締役が2人、その他に取締役が4人いる会社だ。

【橋爪】プロポーザルに申請する時、会社概要という添付書類がある。そこには従業員は何人と書いてあったのか。

【阿部部長】従業員数としては0人というような記載がされている。

【橋爪】それ、本当か。従業員ゼロで仕事ができるのか。市長は疑問に思わないのか。

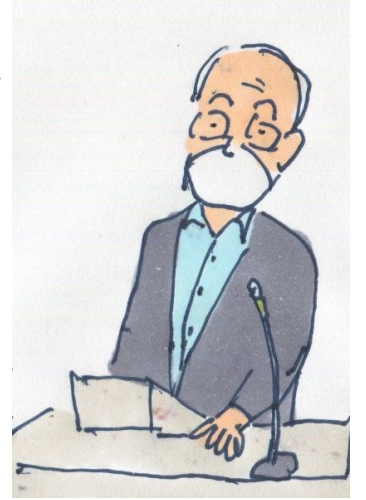
【市長】私はその資料の細部については確認はしていない。

(中略…業務実施体制書の内容をめぐる論戦)

【橋爪】市長、従業員がゼロという話を聴くのは初めてか。市長の重点公約の通年観光が、いま、このような事態になってる。市長どう思うか。

【市長】私の聞き及んだ範囲では2人ぐらいが働いているのかなという話は聞いていた。私としては、(出資した会社の1つが)全国で37ヶ所、実績があるので、それをこの上越でも生かせるんじゃないかなと思、この事業の委託について了承した。

【橋爪】実施要綱などに照らして調査が必要だ。



## 懐かしい曲にうっとり…上越ふれあい混声合唱団

上越ふれあい混声合唱団の24周年コンサートを30日、聴きに行ってきました。高校時代の同級生などが頑張っていました。オープニングは山川啓介作詞、いずみたく

作曲の「ふれあい」。その後は、松田聖子の「瑠璃色の地球」など懐かしい曲が次々と披露されました。いずれの曲も楽しく聴かせていただきました。下はその時のイラスト。



【ヤナギバヒマワリ】キク科の多年草。漢字で、「柳葉向日葵」と書きます。北アメリカが原産地です。葉が柳の葉のように細長いのが特徴です。市内では安塚区が有名ですが、栽培地は、いま、あちこちに広がっています。花期は9～10月です。花言葉は「君のそばにいるよ」。写真は10月3日、吉川区天林寺にて撮影しました。

# はしづめ法一の活動レポート

No.2129 2023.10.8

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索



# 春よ来い

## 第七七六回

### 母のメモ

思わず微笑んでしまいました。

先日、テレビのそばに行ったとき、テレビを置く台の端っこに、「赤いせんは取らない様におねがいします」というメモが目に入りました。

「赤いせん」というのはテレビのそばにある細長いコンセントタップにはめた「上越ケーブルビジョン」の放送機器用電源プラグのことです。プラグには、細い赤のテープが巻いてあって、そこに「抜かないでください」と書いてあるのですが、よく見えます。それで、母が数年前、白い紙にボールペンで同じ趣旨のことを書き、みんなの目に入るようにタップのそばに置いていました。

母が亡くなってから、このメモはどこかに片づけたか、あるいは捨てたものと思っていました。ところが、その母のメモはタップのそばからは離れたものの、テレビの脇にちゃんと置いてあったのです。

久しぶりにこのメモを見たとき、微笑んだのは、まだ私たちに「抜くなや」と伝えようとしている母の気持ちを感じたからです。亡くなって一年経っても、母は私たちを見守ってくれている。そう思ったなら、うれしくなりました。

よく見ると、母のメモ書きはじつにしっかりとした文字で書かれています。少し縦長ですが、読みやすく、しかもきれいです。おそらくわが家の中では一番字がうまかったと思います。

このことがあってから数日後、今度は私のスマートフォンが「チン」と鳴ったので、何かと手にしてみたら、写真の中にある「FonYou」（あなたに）という機能が作動して、今年の「秋」の写真が次々と映し出されました。

この「秋」は昨年の秋に撮った写真のなかから代表的な写真を二八枚選び出し、まとめたものです。米山の写真から始まっ

て、紅葉の写真まで入っているのですが、これらのなかに母の写真が何と九枚も入っていました。いずれも大事な写真で、母からの贈り物のように思えました。

そのうちの一枚目は、母を家で看取るために退院させてもらった昨年九月五日の母の写真です。父の妹である河沢の叔母がベッドで眠る母に声をかけると、母がそれに応えて目を開けました。その瞬間の写真です。母が目を開けた時、目の前の人が誰であるかわかったかどうかはわかりませんが、でも、明らかに顔が見えたという表情でした。「ああ、家に連れて来てよかったです。」と思った記念すべき写真でした。

母が退院した日の午後から翌日にかけて、母の部屋には親戚の人たちや近所の人たち、私の兄弟、私の子どもなどが次々と母に会いに来ました。帰宅後の二枚目の写真はわが家の居間の風景です。そこには私の連れ合いや母が最も会いたがっていた孫の元氣夫婦とその子どもたちの姿がありました。母と再会し、みんなが「良かったね」と喜んでる姿が写っていました。

三枚目には、母の痰（たん）をとっている訪問看護師さんと長女の姿が写っていました。母の自宅での看取りの期間中、何よりもお世話になったのは看護師や介護のスタッフのみなさんでした。いまでもこの期間中、わが家に入出入りしてくださったYさん、Kさん、Tさん、Sさんなどのスタッフの方々の顔が目に浮かびます。

今月の八日は母の祥月命日です。一年経ちました。生前、母と交わした最後の言葉は入院当日の深夜でした。母が「おれ、死んだが」ときいてきたので、「なして、死んでなんかないよ」という言葉を返しました。母の「赤いせん」のメモなどを見たいま、母に「おれ、死んだが」ときかれば、やはり同じ言葉を返します。「なして、死んでなんかないよ」と。

## ドリームフェスタ、4年ぶりに一般公開

県立吉川高等特別支援学校の「吉川ドリームフェスタ」が9月30日、開催されました。4年ぶりに一般開放されるということで参加してきました。

ドリームフェスタでは作業学習発表と創作チャレンジタイムがメインでした。このうち、創作チャレンジでは、ドローンの空撮、音楽グループの演奏を楽しみました。生徒たちはいろいろな学びをしているんですね。

まだ、新型コロナへの警戒心がかなり残っていて、地域の人々の一般参加は少なかったです。こうしたなか、同校を卒業した3期生が数人参加していました。母校を思い、こういうイベントがあれば必ず駆けつけ、在校生を励ましているのです。すばらしい。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月27日(水)	10月4日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.043	0.043
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.070	0.060
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.053	0.057

## 10年ぶりに親子三代展

元上越高校教員の大口満さん親子3代展(大島画廊)を30日、観てきました。3代展は10年ぶり、今回は2度目です。3人ともそれぞれ個性を発揮され、山や川などを素敵に描かれていました。左は萌さんの「スープ」という作品です。

